

2021年5月2日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

エゼキエル書 17：22～24
ルカによる福音書 13：18～21
「神の国とは」

<安息日の解放の後で>

イエスさまは、わたしたちを罪の苦しみから解放するために遣わされた、救い主です。

イエスさまは、安息日ごとに会堂に入り、御自分が、人々を罪から解放するために来られた、ということ。御自分によって、旧約聖書に約束された救いが実現する、ということを語ってこられました。イエスさまこそが、人々を罪から解放して下さり、神さまの恵みのご支配へと招いて下さる救い主、神の国を実現するお方なのです。

そして、先週の聖書箇所では、イエスさまがそのように神の国を実現して下さる方である「しるし」として、安息日に会堂で教えられた後、病の女性をいやし、苦しみから解放して下さった、ということが語られていました。

ところが、その会堂の責任者であった会堂長が、その出来事に腹を立てたのです。なぜなら、安息日に仕事をしてはいけないのに、イエスさまが病気を治すという「仕事」をしたからです。また会堂長は、他の人々にも、治してもらいたいなら安息日ではなく、他の日にしろ、と言い放ったのです。

イエスさまは、そんな会堂長のことを「偽善者」と呼ばれました。

そして、安息日は、神さまがイスラエルの民をエジプトの奴隷の中から導き出し、救い出し、解放して下さったことを覚える日であること。だから、安息日は神さまを礼拝するために、イスラエルの民も、家の奴隷も、みんな仕事を休み、牛やろばなどの家畜さえも縄を解かれて、解放されて、神さまの恵みのご支配に、共に安らうことが出来る日なのだ、ということをお教えされました。

だから、神さまの祝福に与るべきこの女性が、奴隷からの解放を告げる安息日に、イエスさまによって苦しみから解放され、神を賛美するようになったことは、むしろ、安息日の本来の在り方にふさわしいことなのです。こうしてイエスさまは、御自分がすべての人を罪から解放するために来られたことを告げて下さった。罪からの解放を宣言して下さった。

今回は、このような出来事が語られていました。

そして、今日の聖書の御言葉は、その後に、イエスさまが語られたことです。

「神の国は何に似ているか。何にたとえようか。」

神の国とは、イエスさまが安息日に教えておられた、神さまのご支配のことです。それは、わたしたちが、罪の支配から解放され、神さまのご支配の中で生かされるようになること。つまり、イエスさまが実現して下さる、わたしたちの「救い」のことです。

<小さなもの>

さて、イエスさまは、この神の国を二つのものにたとえられました。一つは、からし種。もう一つは、パン種です。どちらも、目の前にあったとしても、あるかないか、その存在が分からないような、どこにあるか見つけられないような、そんな、たいへん小さなものです。

しかし、とても小さなからし種は、やがて大きく成長して木になります。そして、その枝に空の鳥が巣を作るほどになる。あらゆる命を覆い、守り、養い、生かすような存在の木になるのです。

また、とても小さなパン種は、粉に混ぜられると、粉全体を発酵させ、膨らませます。今日出て来た三サトンの粉とは、だいたい 40 リットルくらいですが、わずかな、小さなパン種が、それだけの多くの粉全体に影響を与え、変化させ、膨らませるのです。

ですからパン種は、小さくても、周辺に大きな影響を及ぼすもののたとえでもあります。イエスさまは、神の国を、神のご支配を、そのようなものであると言われたのです。

<神の国とは>

それはつまり、こういうことでしょう。神の国、神のご支配は、人の目には見えません。わたしたちの目には、どこにあるか分からない。途方もなく小さく、まるで存在していないかのように思える。しかし、それは確かにそこに、あるのです。

先週読まれた聖書に書かれていたことも、当時の人々の目においては、パレスチナ地方の、小さな町の、小さな会堂で、一人の大工の息子が語り、行なったことに過ぎません。だからこそ、ある人はこれを聞かず、関心を持たず、語られたことを受け入れなかったのです。腹を立てさえしたのです。

しかし、ここには、イエスさまのおられるところには、もう確かに、神の国があるのです。神の国は、イエスさまが遣わされてこの世に来られ、罪からの解放を宣言し、悔い改めへと招かれたことによって、この地上の、人類の歴史の中で、確かに始まったのです。それを見ることが出来ない人もいます。本当にあるか分からないという人もいます。信じない人もいます。しかし、神の支配は、確かにそこで始まっているのです。

遠いイスラエルの祖先の時代に、父なる神さまが預言者を通して語られた救いの計画が、神の国が、そこで、イエスさまによって、実現し始めているのです。そこにおられるのは、神の御子なのです。そこで語られているのは、罪からの解放の宣言なのです。そこでなされているのは、神の力による救いの御業なのです。

そしてイエスさまは、すべての人類のために、救いの御業を成し遂げられます。苦しみを受け、十字架に架かり、そして復活なさるのです。そうして、すべての人のための罪の贖いが、確かに実現するのです。十字架と復活において、神のご支配は、決定的となりました。

それはまた、人間の目から見れば、2000 年前のエルサレムで、一人のユダヤ人が、十字架刑に処せられたというだけの、小さな出来事に思われたかも知れません。

しかし実は、この出来事は、世界中の、あらゆる時代の、すべての人類に影響を及ぼす出来事だったのです。人類の歴史の転換点だったのです。すべての人類の罪を贖い、すべての罪人を神の子へと新しく造り変える、神さまの偉大な救いの出来事だったのです。

父なる神さまは、そのことを、イエスさまを死者の中から復活させ、罪と死に打ち勝つ勝利を与えられ、天に上げられることで、まったく確かなことであると、弟子たちに明らかにして下さったのです。

そして、今のこの時代にも、この日本の宮崎にも、このイエスさまの救いは、神のご支配は、時も場所も超えて広がり、及んできたのです。そして、わたしたちを神の恵みが支配し、わたしたちを罪から解放し、神の国に生きる者へと新しく造り変えたのです。

さらに、この神の国は、これから先も広がり続けます。これからも人々の罪を贖い、救い、神のご支配へと人々を招き続けるのです。

——そしてやがて、終わりの日。イエスさまが再び来られ、神さまの裁きがなされる日。神さまのご支配は、世界を覆い尽くし、すべてのすべてとなり、誰の目にも明らかなものとされるのです。

今日の、旧約聖書のエゼキエル書の箇所は、終末の預言であると言われています。主なる神さまが植えられた木が、大きく成長し、枝を伸ばし、あらゆる鳥が宿り、翼のあるものはすべてその枝の陰に住むようになる。

イエスさまが遣わされ、罪の解放を宣言して下さることによって始まった神の国は、やがて大きくなり、人々を新しくし、世界を覆い、すべてを包み、すべての者がその陰に宿るようになるのです。そうして、預言は成就に至ります。必ず、その日が来るのです。

だから、ここにいるわたしたちは、今、その神の国が完成に至ろうとする、その只中に生きているということなのです。

<神の国を見つめる>

しかし、わたしたちは、その只中に生かされていながら、神のご支配のもとに宿っていながら、今でも神の国を見失うことがあります。信仰の目を曇らせてしまって、見えなくなることがあるのです。

世の現実の中の、日々の生活の中の、深い悩み苦しみ。痛みや不安。罪の圧倒的な力。死への恐れ。そういった、迫り来る、目に見えるものを前に。わたしたちは神の国が、無力で小さなものだと感じてしまうことがあるのです。見出せなくなってしまふことがあるのです。

それに、わたしたちの周りには、神の国などどこにあるのか。そんな救いがどこにあるのか。こんな悲惨の中の、どこに恵みがあるのか。そう叫ぶ人々も多くいるのです。

しかし、イエスさまは教えられました。

からし種が木に成長して、その枝に鳥を宿すように。神の国は、確かにここにあり、やがて必ず大きく成長する。神さまの救いの恵みは、力強いご支配は、ここに確かにあって、あ

なたたちを覆っている。それは必ず完成に至り、世界を包むのだと。

また、パン種がたくさんのお粉を発酵させ、変化を起こし、膨らませるように。語られた御言葉は、救いの福音は、罪に捕らえられたあなたたちに働きかけ、神の力があなたたちに影響を及ぼし、あなたたちを新しく造り変えるのだと。この罪の世に、御言葉が告げられたなら、それは罪の世に影響を及ぼし、神のご支配を広げていくのだと。

神の国はそのようなものだと、神の国を実現して下さるイエスさまご自身が仰ったのです。

ですから、わたしたちは、自分の弱さより、苦しみや悲しみより、罪や死の力より。既に始まり、広がり、完成に至ろうとしている、神さまの救いの現実をこそ見詰め、希望を抱き、その日を待つ者になりたいのです。

<神さまによって>

さて、もう一つ。今日のイエスさまのたとえでは、からし種は「人がこれを取って庭に蒔くと」とありました。また、パン種は「女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると」とありました。からし種や、パン種は、ただそこにあったのではなくて、どちらにも、働き手が登場していたのです。

それは、わたしたち人間ではありません。これは、神さまが蒔き、神さまが混ぜられました。神さまの御手のお働きによって、神さまの力によって、神の国は始まり、実現し、告げ広められ、完成に至るのです。

父なる神さまが、御子イエスさまをこの世に遣わされたこと。御子イエスさまが、苦しみを受け、十字架に架けられて死なれ、そして復活させられたこと。聖霊が、わたしたちに注がれて、信仰を与え、祈りを導き、イエスさまと結び合わせて、神の子として下さること。

神の国、神のご支配、神の救いは、この三位一体の神さまの御業によって、実現していくのです。神さまによって、救いの恵みが広がっていくのです。そして、神さまが、神の国を完成させて下さるのです。

わたしたちは、この神さまのお働きの中で、今、ここに召し集められて、神さまのご支配の中に置かれて、礼拝をささげています。神さまのお働きによって、罪から解放され、新しくされ、賛美する者とされています。ここに、生きておられる神が、働いておられるのです。

ですから、わたしたちが、神の国を完成させるのではありません。それは、神さまが成し遂げて下さることです。

しかし、その神のご支配のもとで召し集められた、わたしたち教会は、すでに神の国に生き始めている者として。すでに恵みを受けた者として。すでに新しくされたものとして。神さまのなされる御業に、驚きと賛美をもって仕え、この喜びを、証しして歩んでいきたいのです。ここに、神の国がある、救いがある。そのことを宣べ伝えていきたいのです。

わたしたちの群れは、とても小さく、大きなことは出来ない、毎週ささやかな礼拝をささげているに過ぎないと、思われるかも知れません。しかし、ここにあるのは、神の国です。

ここに働いておられるのは、生きておられる神さまです。「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」と、約束されているのです。この小さな群れも、福音を信じ、神の国に生きて行くならば。周りの人々に、地域の人々に、この罪の世の中に、神さまの恵みを及ぼしていくものとされるのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

今日は御言葉から、神の国がどのようなものを教えられました。

それは、小さなものようであり、あるかないか分からないようなものようでありながら、しかし、イエスさまによって確かにわたしたちの世に実現し、神を礼拝するわたしたちの今ここに、確かにあるものです。

それは、神の力によって、罪人を神の子とし、死ぬべき者に永遠の命を与え、苦しみを喜びに、嘆きを賛美に、変えて下さいます。

そして、この神さまの恵みのご支配は全世界に及び、終わりの日、すべての者の目に明らかかな現実となります。

この確かな神さまの恵みを、また確かな週末の希望を、はっきりと見つめる者として下さい。そして、神の国が告げられる、そのあなたの御業に、わたしたちもまた用いて下さい。

神の国に生きる喜びを、わたしたちが証し、告げ広め、この礼拝へと多くの人々を招いてくることが出来ますように。

イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン